

1. 川根本町立学校の今後の方向性

持続可能な川根本町の子育て・教育を目指して

☆川根本町型学校教育制度

○川根本町型義務教育学校の開校（現存施設の活用（小規模改修））

- ・通学区域の弾力化

○「0歳～18歳」のキャリアを線でつなぐ子育て・教育

- ・保幼小中一貫の取組（合同研修会、保護者参加の意見交換会）

- ・連続した就学支援

- ・連携型中高一貫教育の継続

 - 教員授業交流

 - 生徒交流（川根の郷の夢を語る会・川根の郷「夢」プロジェクトなど）

 - 教職員合同研修会

○コミュニティ・スクール運用開始



☆川根本町学校教育ビジョンの改訂

◎『育てたい子供像』の共有

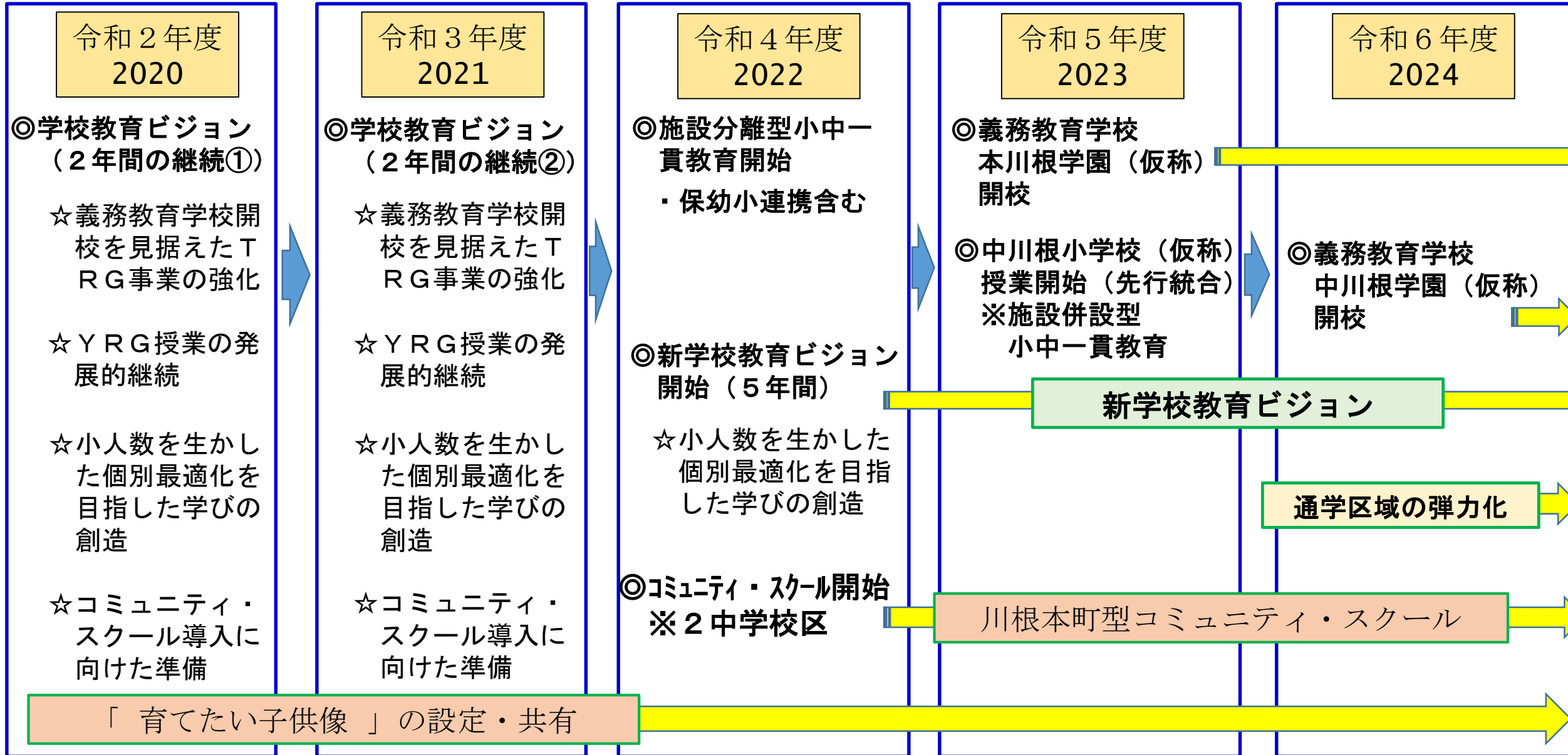
町内外への広報活動の充実

- 個別最適化の学びを創造『新学校教育ビジョン（川根プラン（仮称））』
 - ・教科横断型学習の推進
 - ・インクルーシブ教育（特別支援教育）の充実
 - ・子供達が学びの主体となる教育
 - ・探究型学び
- キャリア教育を基盤としたカリキュラム・マネジメント
 - ・学年の枠を超えた学び

【特色ある教育】

- ・ ICT 教育 ・ 英語 教育 等

2. 川根本町学校教育施策スケジュール案



3. 令和元年度の川根本町の小中学校の現状

町全体常勤県費教職員数：67人

常勤県費教職員数：14人



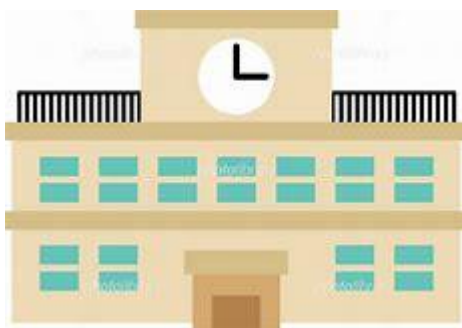
中川根中学校

常勤県費教職員数：12人



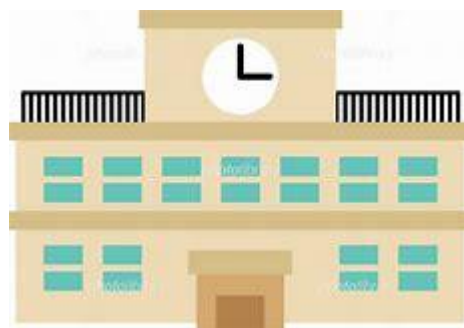
本川根中学校

常勤県費教職員数：10人



中川根第一小学校

常勤県費教職員数：12人



中央小学校

常勤県費教職員数：9人



中川根南部小学校

常勤県費教職員数：10人

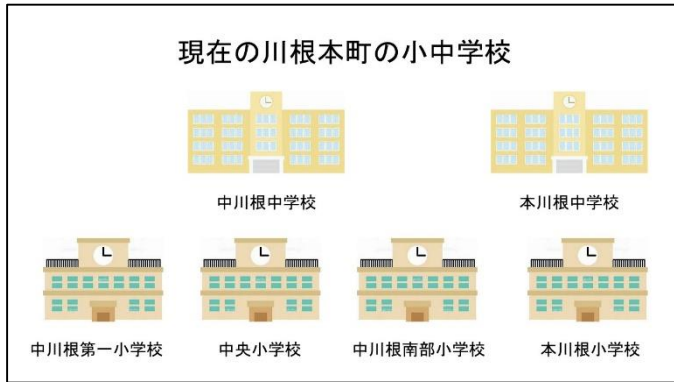


本川根小学校

4. 教育施策スケジュール構想図

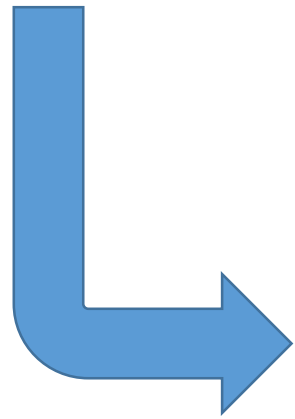
令和2～3年度

『**現行学校教育ビジョン**』（2年間継続）
施設分離型小中一貫教育の準備・一部実施
コミュニティ・スクールの実施準備



中川根中学校学区
小中一貫校（仮称）

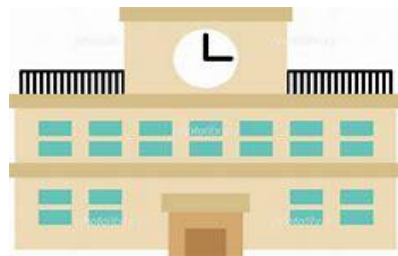
本川根中学校学区
小中一貫校（仮称）



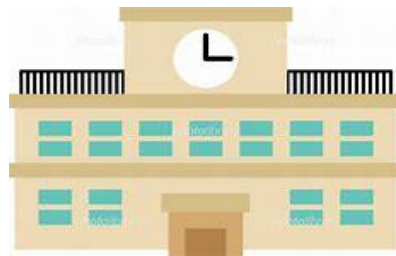
中川根中学校



本川根中学校



中川根第一小学校



中央小学校



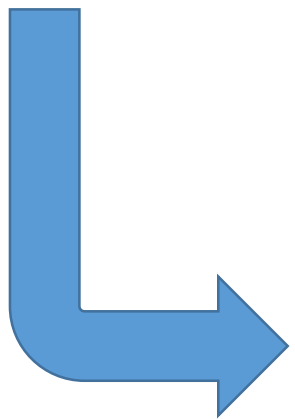
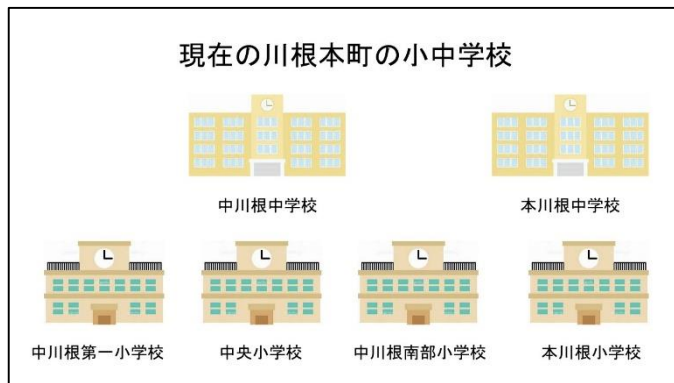
中川根南部小学校



本川根小学校

令和4年度

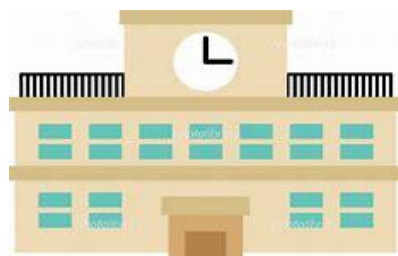
義務教育学校移行準備（施設分離型小中一貫教育）
コミュニティ・スクールの開始



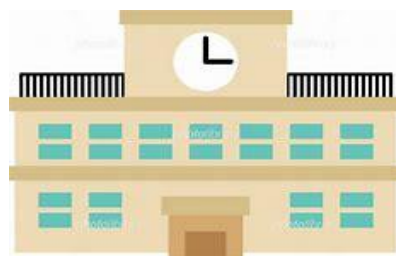
中川根中学校学区
小中一貫校（仮称）準備



中川根中学校



中川根第一小学校



中央小学校



中川根南部小学校

本川根中学校学区
義務教育学校
本川根学園（仮称）準備



本川根中学校



本川根小学校

令和5年度

本川根地区義務教育学校開校

現在の川根本町の小中学校



中川根中学校



本川根中学校



中川根第一小学校



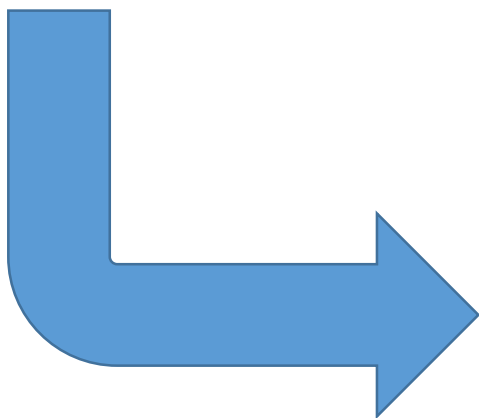
中央小学校



中川根南部小学校



本川根小学校



中川根地区義務教育学校開校に向けた3小学校先行統合

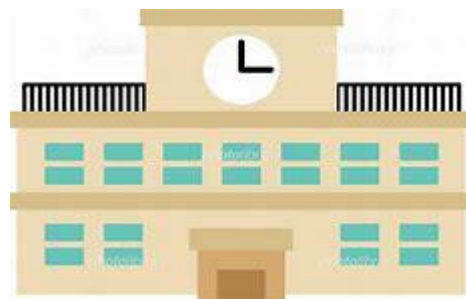
常勤県費教職員数：27人

※校長2、教頭2、教諭18人
養護教諭2、栄養教諭1
事務職員2

中川根中学校学区 小中一貫校（仮称）



中川根中学校



中川根小学校（仮称）

統合 {
中川根第一小学校
中央小学校
中川根南部小学校

常勤県費教職員数：21人

※校長1、教頭1、教諭17人
養護教諭1、事務職員1

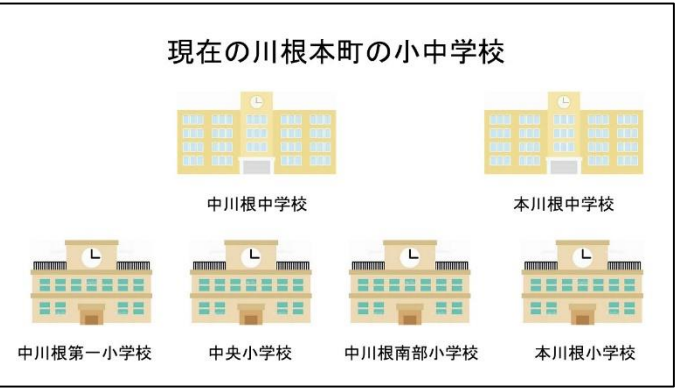
義務教育学校 本川根学園（仮称）



統合 {
本川根中学校
本川根小学校

2つの義務教育学校 (通学区域の弾力化)

令和6年度



町全体常勤県費教職員数：48人

常勤県費教職員数：27人
※校長1、教頭1、教諭22人
養護教諭1
栄養教諭1
事務職員1

義務教育学校 中川根学園（仮称）



統合 { 中川根中学校
 中川根小学校（仮称）

常勤県費教職員数：21人
※校長1、教頭1、教諭17人
養護教諭1、事務職員1

義務教育学校 本川根学園（仮称）

